

# 酪農学園大学

農食環境学群 環境共生学類

## 環境動物学研究室

当研究室は、2014年度に開設されました。主に鳥類を対象として、野外調査とラボワークによって生態を明らかにし、進化の問題や、保全の問題を含めた自然環境との関わりについて研究しています。飼い鳥は研究対象にしていません。

教員は、大学だけでなく、国内外の博物館や動物園、環境系 NGO・NPO で主に鳥類の生態や保全に関わる研究や普及啓発など業務に携わってきた経験があります。研究手法としては、野外調査によって生物の生きざまをよく観察して研究課題を発掘することを重視しています。ただし、研究目的に応じて、DNA 解析や GIS 解析、音声・画像解析などの室内作業がメインの手法をとる場合もあります。

来年度から、修士課程の学生も受け入れる予定です。当研究室では博士課程の学生の受け入れは出来ませんが、学類では博士課程も設置しています。

Web サイト：<http://laboratory.rakuno.ac.jp/labo-303.html>

### 【構成員】

教員：森 さやか 准教授 <syk-mori@rakuno.ac.jp>

学部4年：男6名、女4名（定員8名）

学部3年：男6名、女2名（定員8名）

### 【2015年度卒業論文】

- ・ウズラの鳴き声再生とおとりへの反応性について
- ・捕食リスクの異なる猛禽類に対する鳥類の対捕食者行動
- ・北海道の都市部と農耕地でのスズメ (*Passer montanus*) の繁殖率の違い
- ・野幌森林公園において巣箱を利用するシジュウカラの繁殖生態
- ・酪農学園大学構内におけるスズメの営巣場所と繁殖フェノロジー
- ・センダイムシクイ (*Phylloscopus coronatus*) のテリトリー分布について

### 【2016年度卒業論文（仮）】

- ・札幌市手稲区におけるカササギ (*Pica pica*) の行動圏と繁殖生態
- ・北海道・宮島沼周辺の圃場におけるドローンの接近飛行に対するマガンの反応
- ・北海道に生息するアカゲラのつがい外交尾と子のヘテロ接合度との関係について
- ・アカゲラの巣内雛の性と頭頂部の赤色の羽毛の関係
- ・野幌森林公園におけるアカゲラ (*Dendrocopos major*) の繁殖生態
- ・シマフクロウ (*Ketupa blakistoni*) の音声による個体識別法の改良
- ・ウズラ (*Coturnix japonica*) の野生個体群の音声の季節変化
- ・酪農学園大学構内におけるスズメの繁殖生態
- ・絶滅危惧種ノグチゲラのマイクロサテライトプライマーの開発と多型解析